



子どもの姿が出発点 ～「接続の質」を高める保幼小連携をめざして～

今回は、通信N o. 5-①で紹介したモデル校区における職員間の交流から、実際に行われた幼児間交流活動の取組について一部紹介します。すべての活動において、双方でねらいや内容をしっかり共有し、互恵性のある取組がなされていました。

7月23日 ★あゆみ保育園とへいわだい認定こども園★

今年度に入って初めての交流会となることから、両園の子ども達に緊張している様子が見られました。自己紹介をしたり、保育者が仲立ちをしたりする中で、次第に緊張もほぐれ、互いに名前を呼び合ったり、保育者が出されたミッションに協力して取り組んだりする姿が見られました。



(活動のねらい①)

○交流を通してコミュニケーションを取りながら相手の名前や顔を知る

名前は〇〇です



グループで自己紹介

T: 好きな食べ物のは?



保育者が緊張をほぐれるよう援助する

マンゴーとゴーヤー



〇〇が読んでくれる?



すぐに名前を覚え打ち解ける

おりがみでハートを...



ミッション確認



(活動のねらい②)

○ミッションゲームを行う中で、考える力や協力し合うことの大切さを知る

私に任せて



本を見てみよう

①折り紙でハートを作る



リズム合わせるよう

②大縄連続ジャンプ

どこにあるかな...



③指定された絵本を4冊探す

大きくなってきたよ



そろそろトンネル作れそうだね

④トンネル山を2つ作る

8月6日 ★あゆみ保育園と上田こども園（でいご組）★

7月23日へいわだい認定こども園との交流会同様、初めは自己紹介から始まりました。やはり両園少し緊張している様子でしたが、チームで作戦を立てたり、チームの子を応援したり、わからない子に教えたりする姿が見られました。



（活動のねらい）

- 交流を通して**コミュニケーション**を取りながら相手の**名前や顔を知る**
- ゲームを通して自園のみではなく**他園の子ともコミュニケーション**をとりながら**協力する事の大切さ**を知る

ひらがなゲーム

- ①2チーム以上に分かれて行います。
- ②保育者から出されたお題を聞いて、そのお題に合うひらがなを探します。
探す際は、各チーム一人ずつ順番に行きます。
例えば、お題が【「み」から始まる果物だとしたら、各チームから探す子が1人ずつ出てきて、探し終わったら次の子と交代します。
- ③先にお題を作れたチームの勝ちです。



ほら、あそこにあるよ

フラフープ取りゲーム

- ①2チームに分かれて行います。
- ②お互いの陣地に3つずつフラフープを並べて置きます。
- ③30秒間、お互いがそれぞれの陣地にあるフラフープを取り合います。
- ④最後にフラフープが多く残っているチームの勝ちです。

負けないぞー



こっちから取った方がいいよ

どうしたら勝てるか考えよう...



10月22日 ★上田こども園・あゆみ保育園・へいわだい認定こども園★

この交流会では、3園が上田こども園（結節点）に集まって、当日のねらいや内容などについて共通理解を図りながら意見交換をし、当日はそれぞれの園が考えてきた触れ合い遊びやゲームを楽しむ姿が見られました。



（活動のねらい）

- 就学前施設間交流を通して**互いの保育観**や**幼児理解**を深める（保育者）
- 他園の同年代の友達と交流を通して**親しみ**を持つ（幼児）
- ルールのある遊びを通して**言葉による伝え合い**や**繋がり**を味わう（幼児）



伝承遊び「なべなべそこぬけ」



ボール運び（入れ替え）ゲーム



ころころドッチボール



まずは交流（職員間→子ども同士）から始めてみませんか？

交流会を重ねるごとに3園の職員が気軽に会話をしたり、楽しさを共有したりする姿が見られ、顔の見える・気軽に話し合える関係性の構築が進みつつあります。また、子ども達も隣の子に自分から話しかける姿もあり、子ども達が交流会を通して自分から新しい人間関係を築く力がしっかりと育ってきていることを、モデル校区の取組から感じ取ることができました。職員同士がつながると、子ども達同士も自然とつながりますね。各校区においても職員間・子ども同士の交流を充実させ、すべての子ども達が安心して小学校へ入学できるようにしていきましょう。

豊見城市幼児教育センター

